

令和3年度2学期始業式 式辞

皆さん、おはようございます。校長の川崎芳徳です。

今日、元気な皆さんと再会できましたことを、心から嬉しく思っています。

このたびも、緊急事態宣言発令中でもあり、新型コロナウイルス感染防止の観点から、大変残念ですが、放送での始業式となりました。

皆さん、お盆前後の大雨では、被害はなかったですか。全国には犠牲になられた方も出てしまいました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り致しますとともに、被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、42日間の夏休み、どのような時間を過ごされましたでしょうか。

夏休みに入ってすぐの、7月23日に開会式、8月8日に閉会式が行われた東京オリンピック競技大会では、日本は、金27個、銀14個、銅17個の計58個のメダル獲得と大健闘し、これまで最多であった、前回のリオ大会で獲得した41個を17個も上回り、過去最多のメダル獲得となりました。現在は、東京パラリンピックの熱戦が繰り広げられており、今月5日に閉会式を迎えることとなっています。

本校26回生の八木かなえさんも、ロンドン、リオに続き、3大会連続の出場を果たされ、ウェイトリフティング競技、女子55kg級で、見事11位の成績を収められました。オリンピックから戻られてすぐに学校へ来られ、ウェイトリフティング部に応援のお礼と大会の報告、その後、校長室へも来られ、大会報告をしてくださいました。私は、八木さんの、謙虚で礼儀を重んじる姿勢に、いつも感心させられています。これも、ご両親はもちろん、長年、八木さんのコーチをされ、東京オリンピックにも帯同されておられた、元本校保健体育科教諭でウェイトリフティング部顧問であった横山信仁先生のご指導の賜であるとも思っています。

この度の、1年遅れという異例の開催となった東京オリンピック・パラリンピックを通して、皆さんは何を感じ取られましたか。オリンピック・パラリンピックを、高校時代に母国で味わうことができることは、この上ないラッキーです。世界中から、人種の違う、肌の色の違う、髪の色が違う、言語の違う、文化の違う、宗教の違う、そして、腕が無い、足が無い、目が不自由などなど、様々な、多種多様な“個性”やバックグラウンドを持つ人々が集い、スポーツの共通のルールの下、鍛え上げられた精神と肉体で、正々堂々と競い合っていました。試合後はノーサイド、勝っても負けても互いに深い敬意を払う…この姿に、私も胸を打たれ、スポーツの素晴らしさとともに、人間はどのように生きていかなければならないのかを、改めて教えられました。とりわけ、パラリンピックの選手の活躍を見て…もし自分が、腕を失い、脚を失い、目が不自由になり…そんな中、自らを追い込み鍛え、そしてあの満面

の笑みで、逆に健常者に勇気を与え励ますような存在になれるだろうか…いや、それは簡単なことではありません。ならば、せめて、決めた目標に向かっていくとき、無いものを並べ数えて、「無理無理」と、軽々にあきらめるということだけはしないようにしなければと、つくづく考えさせられました。

是非、皆さん、このたび感じられたことを大切に、これからの長い人生に生かしてください。そして、生涯にわたって、スポーツや文化的活動を「する」、「みる」、そして指導者やボランティアとして「支える」といった形で関わりながら、心豊かな人生を歩み続けてください。

その点では、現在、皆さんが日々、部活動、委員会、同好会等の活動に汗を流し、自らを高めることに努めていること、とても頼もしく思っています。ウェイトリフティング、水泳のインターハイ出場、男子バレーの近畿大会出場、高校から始めた競技でコツコツと努力を重ね、見事予選を突破し本戦へ出場したバドミントンのペア、激戦神戸地区を勝ち上がり、23年ぶりに秋の県大会出場の切符を手にした野球部、夏休みに校内で行われたギター同好会のコンサートもすばらしく、日頃の練習成果をしっかりと見させていただきました。このように挙げていけば切りがありません。皆さん、本当によく頑張っています。私も、応援に行くのをいつも楽しみにしています。2学期も頑張ってください。

話は一変しますが、オリンピックの閉会式とパラリンピックの開会式の間の8月15日、76回目の終戦記念日を迎えました。先の戦争である「大東亜戦争」いわゆる、「第二次世界大戦」では、皆さんと同じ年代の多くの若者が、“お国の未来のために”と、“覚悟”を決め腹をくくり、尊い命を落とされました。8月15日は、本校におきましても、戦争で犠牲になられた方々への弔意を表すため、国旗をグラウンドの掲揚ポールの先端から三分の一程度下げる半旗を掲げました。

皆さん、“お国の未来のために”の“未来”とは、いったいいつのことでしょうか…それは、まさに“今日”“今この時”なのです。多くの尊い「命」の犠牲の上に、今日の我が国の繁栄と、何より「平和」があるのです。例えば、今のコロナ禍の中、我が国以外に、オリンピック・パラリンピックを、安全・安心に開催できる力を持った国があったのでしょうか。その素晴らしい日本の“今”を生きる私たちが、ただ毎日をぼんやりと過ごしては、たった一つの尊い「命」をかけて、今日の平和で豊かな日本のために犠牲になられた方々に、あまりに申し訳なく、合わす顔がありません。

皆さん、ご両親からいただいた、この世にたった一つの『命』を大切に、これまでにも増して志を高く、自らの可能性を妥協なく伸ばしてください。

2学期は、「読書の秋」「芸術の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」、そして、これまでの努力が実を結ぶ「実りの秋」です。

とりわけ3年生は、大きな実りの季節です。恐れることなど全くありませ

ん。本県総合学科の先頭を走る友が丘の学びを試せる絶好の機会と捉えて、チャレンジを楽しんでください。無いものを数えない、皆さんの持っている多くの力を信じ……各自が“持ち前”で勝負です！胸を張って持ち前で勝負したなら、必ず、納得の結果を手に入れることができるでしょう。このチャレンジも、決して一人ではありません。ご家族はもちろん、担任の先生、学年の先生、進路ガイダンス部の先生、授業で教わっている先生、部活動の先生、そして多くの友が……皆さんの応援団はあちこちにおられます。どんどん相談しながら、自らとしっかり向き合い、生き方、在り方を考え、進むべき道を選択・決定してください。私も全力で応援しています。

それでは、今日は、この後、本校の教育の柱、「知・考・行」の具現化、実現に向け、生徒指導部長の徳山先生から、校則に関して、その後、保健部長の中村先生から、新型コロナウイルス感染防止についてお話しいただきますので、よく聞いてください。

それでは、須磨友が丘高等学校が、「利他の心」、互いを思いやるエネルギーで満たされた集団となり、この秋という絶好の季節に、皆の「総合的人間力」がますます向上していくことに大きく期待し、令和3年度2期始業式の式辞とします。

皆さん、力を合わせて頑張っていきましょう！

令和3年9月1日

県立須磨友が丘高等学校長 川崎 芳徳